

倫理  
Q  
& A

# 夫と妻は 合わせ鏡

夫婦の様々な悩みに答える



倫理研究所  
編

## はじめに

近年、日本の離婚率は上昇傾向にあり、夫婦の三十八・二パーセント（約三組に一組）が離婚を経験し、その理由のトップは「性格が合わない」だという報告があります（二〇一九年八月 厚生労働省調べ）。

これまでは全く違う環境の中で暮らしてきた二人ですから、生活習慣も違えば、性格も異なるのは当然のことでしょう。しかし、最初は新鮮に見えたそうした違いも、時間が経つにつれて次第に「気に障る」とマイナス的な印象へと変わってしまった人は多いようです。

夫婦関係は暮らしのあらゆる幸・不幸を左右する原点であり、出発点です。夫婦が仲良く生活を送るとき、出産や子育て、仕事や商売など、生活に関わるいろいろな物事が順調に運び、さまざまな幸福が産み出されます。しかしながら、日々の暮らしの中で夫婦はあまりにも身近な存在であるがゆえに、ときには相手に対するわがままな思いが顔を出し、心の歯車に狂いが生じることも少なくありません。

たとえば、相手の癖に対して不足不満を持つ。夫（妻）の態度をなんとかして変えたくなる。ささいな出来事が発端となって、素直に向き合えなくなる。気を遣いすぎて言いたいことをいつも我慢してしまう――。

実は、こうした夫婦関係こそが、家庭内に暗い影を落とし、家族の健康や子供の性格、事業、商売など、いろいろなことに悪影響を及ぼすのです。

もつれた糸をいかにしてほぐすのか。どうすればもっと仲良くなれるのか。夫と妻が夫婦であることの喜びを実感し、二人が持つ無限の力を発揮しあって豊かな人生を築いていくにはどうすればいいのか。それは、何十年と年月を重ねてきた熟年夫婦はもちろん、結婚したばかりの若い世代にとっても、共通するテーマといえるでしょう。

夫も妻も生身の人間です。失敗もあれば挫折することだってあるでしょう。

しかし、どんな問題も乗り越えられないことはありません。

自分の身に起きてくることは、すべて自身が成長するために必要なことであり、押し寄せてくる苦難は、夫婦がより強く結びあい、より愛を深めあうための試練に

ほかならないのです。

本書は「倫理Q&Aシリーズ」の第二弾として、夫婦問題の解決はもちろん、夫婦が乗り越えなければならぬ、さまざまな家庭内の問題に至るまで、二十五本のご相談に回答したものです。

夫婦としてよりよい関係を築くためには夫として何が必要か、妻として何が大切なのか。本書を自身の心のありようや姿を省みるヒントとして、夫婦の間に訪れるさまざまな危機を乗り越えられますように。一組でも多くの「いい夫婦」の誕生につながることを願ってやみません。

令和二年十二月

倫理研究所

はじめに 3

## I すれちがい

- 嫉妬深い夫に悩む 12  
夫婦の会話がない 18  
ケチな夫にうんざり 22  
短気でわがままな夫 27  
パートに出てから相手にしてくれない妻 32  
夫と離れ離れの生活に不満 37

## II 出産・子供

- 子宝に恵まれない 44  
子づくりに関心な夫 48  
子供を墮ろせと言う夫 52

## III 問題行動

- 実家に頼る妻 60  
家庭をなおざりにする夫 65  
ブランド物を次々と購入する妻 70  
給料を家庭に入れない夫 75  
定職がなく、賭け事に夢中な夫 80

離婚をしたいと言う夫 85

## IV 健康

認知症が進む妻。介護の心構えは？ 90

健康管理に無頓着な夫 95

失われた夫の男性機能 99

夫の看病に疲弊 103

## V 仕事

夫の事業不振で生活が不安定に 108

同居する舅姑と合わない 112

一人っ子同士で後継者に悩む 117

店を継いだ夫が親と衝突 123

夫に内緒の父の負債 127

反対を押し切って結婚したが、和解したい 131